

学界消息

史学研究會關係

例会 十月二日(土) 午後二時

楽友會館パーラー

イギリス地主制の一考察 越智 武臣

ピテアスの航海について 織田 武雄

大会

十一月一日(月)見学 京大の学内バスを利用し午前九時京大陳列館前を出発し、久津川古墳、般若寺、東大寺、薬師寺、唐招提寺等を見学し、途中古墳、集落などを車内より展望した。赤松俊秀、岸俊男、小林行雄、藤岡謙二郎の諸氏が解説に当つたが好天にも思まれ五十数名の会員の参加を得た。只バス故障の為思わぬ御迷惑をお掛けしたことをおわびすると共に、見学に便宜を与えられた東大寺、薬師寺、唐招提寺の各寺院、解説その他に多くの御尽力を与えられた奈良女子大学岸俊男氏に深甚な謝意を表するものである。

總會及び大会

十一月二日(火) 午後一時楽友會館講演室

總會 原理事長の挨拶にはじまり、赤松、

佐伯、藤岡各理事より会務報告があつた。尚本年は役員改選期に当るが、今回選出された新役員は別記の通りである。

講演

アフガン・トルキスタン 岩村 忍

中国古銅器論 梅原 末治

最近外遊を終えられた両講師の講演は深い肝銘を与えた。

尚大会終了後楽友會館パーラーにおいて、

最近ドイツより帰朝された井上評議員の帰朝歓迎会を兼ねて晚餐会が行われた。また

当日午前十時より京大国史(近畿村落発達史の綜合調査による新採集史料)・考古学

(主として欧州及び近東の考古学的遺物)

両研究室では史料展覧を実施した。

国史關係

讀史會秋季見学旅行 十月二日(土) 一

一五日(火)

小葉田教授以下三五名は、三日未明京都を發ち、屋前に秋雨そほ降る福島で下車した。名ばかりの關所の跡を訪ね郷土館で平出遺跡出土品や關所關係文書を見て、下諏訪に向う。後奈良院女房奉書を始め多くの古文書宝物類を見学し、上諏訪の宿に泊る。翌

四日修理中の松本城を見学、長野から戸隠に向う。飯縄黒姫戸隠三山に囲まれた雄大な高原を迂折してバスで中社に着く。一泊。五日飯社殿で信玄願文などの古文書拝観、長野へ下りて善光寺に参詣。正午現地解散。(善光寺大勧進東伏見慈治氏はじめ諸先輩の御力添を感謝します。)

讀史會秋季大会 十一月三日(火) 午前九時

京大文学部第一教室

租庸調制の成立 田田 香融

真宗初期教団における一試論 梅原 隆章

平賀源内の思想 大月 明

幕末の佐賀城下町の籠町について 池田 史郎

日本における革命的 中塚 明

議會主義のための闘争 時野谷 勝

討幕派の構成について 中村 二柄

美術史教育の課題 横田 健一

家伝(鎌足伝)の成立 藤谷 俊雄

古代社会の基本問題 上横手雅敬

承久の変に関する覚書 宅間 博

近世大堰川の筏運 宮川 満

封建社会における一地主家の歴史 日置弥三郎

天領飛騨国の米穀政策

越前紙業について

小葉田 淳

松本彦次郎

上記の多様な発表が行われ、活潑な質疑応答が展開された。本年は松本彦次郎氏が選

鑽たる姿を見せられ、含蓄深い発表を行わ

れた。大会終了後例年通り紫明荘で約四十

名参集してなごやかに晩饗会がおこなわれ

た。

大阪歴史学会秋季大会 九月廿六日(日)

午前九時半 関西大学大学院

デフォウの政治思想

天川潤次郎

服飾史資料としての

清田 倫子

建春門院中納言日記

寺広 映雄

清末に於ける拒俄運動の發展

秋山日出雄

寺領統制組織の崩壊過程について

岡崎 精郎

西夏とワイグル

蘭田 香融

畿内郡司について

善峰 憲雄

黄巢の乱

野田 只夫

山林地主の源流

守屋美都雄

舎人考補正

佐藤 虎雄

蔵王権現の信仰

(以上第一会場)

明治前期における地主層の動向

服部 敬

近世農村社会生活の一断面

福島 雅藏

「稅款法」について

井上 薫

幕末における御用金賦課と

在地の構造

宗門御改帳の史料価値

塩野 芳夫

近世後期における農民闘争

小林 茂

近世初期に於ける

朝尾 直弘

在町前期的資本の形成

中部よし子

近世初期に於ける

地主の一性格

徳川前期畿内農村の一例

山口 之夫

徳川前期畿内農村の一例

鴛見 等隴

日本史研究会大会 十月三十日(土)三十一日(日)

立命館大学大学院

「日本人と変革期の課題」

(以上第二会場)

(原始の部)

藤沢 長治

階級社会の成立

藤沢 長治

(古代・中世の部) 古代権力の崩壊と

藤沢 長治

民衆意識の変革

藤沢 長治

日本におけるメシア運動

高取 正男

古代末期の社会的指標

林屋辰三郎

南北朝内乱をめぐる諸階級とその動向

楠瀬 勝

唐宋の変革に関する再評価

池田 誠

(近世・近代の部)

池田 誠

幕末期における歴史的課題

池田 敬正

(現代の部)

志士」的ブッチと国家権力

天皇制ファッションと

前島 省三

農民闘争

中塚 明

(歴史教育の部)

明

義務教育における歴史教科書批判

立命館大学日本史研究室学生報告者集団

仏教史学会大会 十一月廿日(土)

午後一時、大谷大学

西域出土蔵文無量壽宗要経考

壁瀬 濯雄

法然以前の関東における浄土教

坪井 俊映

伝承当初のチベット仏教

稲葉 正就

元政と元征と元偪

長部 和雄

己山師蚕の禪宗嗣承観

萩須 純道

日本天台と浄土教の受容

恵谷 隆戒

念仏鏡の諸問題

小笠原宣秀

本願寺の世代について

藤島 達朗

山科八幡の御影について

宮崎 円遊

東洋史関係

宮崎 円遊

東洋史談話会大会 十一月三日(火)

午前九時

京大人文科学研究所講堂

宮崎 市定

九品官人法新考

小玉新次郎

黒旗軍について

小玉新次郎

清朝の対義和団政策

椋井 敏照

仁孝皇后勅善書について

牧田 諦亮

唐代における地方官僚の諸問題

善峰 憲雄

前漢の侯国について

布目 潮瀧

漢代における法秩序としての

増淵 龍夫

「約」について

藤原利一郎

阮朝の対華僑政策

愛宕 松男

キタイ部族制とトーテミズム

旗田 颯

高麗の武士

魏 巍

大会終了後、文化視察団の一員として渡華

され、十月末帰国された貝塚教授の歓迎会

を兼ねて盛大に晩餐会を行つた。

京大大学院懇談会 十月九日(土)

古代の巴蜀

京大陳列館会議室
狩野 直禎

東方学会 十一月四日(木)

京大人文科学研究所講堂

カロステイー文書の年代論 榎 一雄

フランスにおける印度思想の影響

ルイ・ルヌー

東方学術協会 九月二十日(月)

京都毎日会館

アフガニスタン踏査報告

岩村 忍

人文科学研究所創立廿五週年記念講演会

十月二十六日(火) 大阪朝日新聞社講堂

仏教美術の東漸

水野 清一

自叙伝の文学

桑原 武夫

十一月一日(月) 京都毎日会館

清涼寺釈迦像の封藏品

塚本 善隆

明治維新と女性

井上 清

なお同所では十一月七日(土)午後一時より本館講堂で盛大に記念式典を行つた。

西洋史関係

西洋史読書会大会 十一月三日(火)

多数の発表者、参加者をえて、年々盛會に

赴く本會の成長を示した。

現今におけるエジプト語の

研究について

アンタルキダス条約の

効果について

カロリンガ・ルネサンスの

文学と歴史

東部英国における

ノン・マナについて

土地所有の解体

ルネサンス美術の理想主義

ミュンツァーの思想の一考察

ルターの社会観

加藤 一郎

衣笠 茂

兼岩 正夫

富沢 靈岸

進藤 牧郎

藤原 国男

中村賢二郎

成瀬 治

ジョージ三世の即位をめぐる

一連の問題 米田 清治

十九世紀前半のフランス社会小説

に關する一考察 杉村 和子

ヘーゲルとその時代

秋山 博愛

執行委員会とアトリエ

ナショノーの解散 平田 嘉三

エリザベス朝に關する

ニール教授の業績 植村 雅彦

歴史主義の方法について

神山 四郎

スバルタ

原 隨園

晩餐會は京都ブルニエにおいて行われた。

地理学関係

日本地理学会大会 十月三十日(土)三十一

日(日) 広島大学

研究発表が一〇八の多きに及ぶので史学研

究会会員関係の公開講演・研究発表のみを

抽出すれば次の通りである。

(公開講演)

水資源の利用にともなう諸問題

(研究発表)

都市農業の一形態「すきき」栽培

多田 文男

小池 洋一

田辺市周辺の金柑栽培 岡本 啓志
赤石山系南緑林業地帯における
山林所有形態 細井 淳一

志摩半島の真珠養殖業と
在来漁業 大島 襄二
山陰地方の資本制漁業と零細漁業
田中 豊治

湖北の民屋 内田 秀雄
東北地方における郷土集落
長井政太郎
原始時代の台地性有界集落址
小野 忠熾

古代遺跡より見た
播磨平野の景観 山田 安彦
我が国における
仏教系世界図の系譜 海野 一隆

副業導入と村落構成 浅香 幸雄
たたらよりみた石見国波佐村の
社会経済構造 庄司 久孝
土地と宗教 当麻 成志

堺市の復興生態 位野木寿一
(共同研究 五箇山 大阪市立大学)
交通の発達と山村の変貌 村松 繁樹

部落配置にあらわれた圈構造 岩田 慶治
和紙製造と五箇山の生活史 渡辺 久雄
新しい開拓―米穀の自給化 君塚 進

山村における水田形成の地理学的意義 水津 一朗

(共同研究 興除村 岡山大学)
興除村の開発過程 庄司 久孝

底地所有権をめぐる権力関係 高田 正規
作株及又小作の階層的地位とその性格
由比濱省吾

生産手段の発展 石田 寛
農村近代化の一類型としての興除村 河野 通博

人文地理学会大会 十一月三日(火)京都大学
本年度にかぎり京大地理学談話会及び立命
大地理学同致会との共催で開かれた。発表
者三五名、参会者二五〇名の多数にのぼり
年々盛会に赴く傾向顯著である。史学研究
会々員関係の研究発表、並びにシンポジウ
ムは次の通りである。

市町村別人口より見た淡路の地域性 竹松 定雄
近畿諸都市の人口吸引について 木下 良

中心機能と平等係数 堀川 侃
天龍・大井両河川流域に於ける
山林所有の階層構造に関する一試論 細井 淳一

交通路の変遷と集落の移動 小林 博
河岸集落の強制移動と 樋口 節夫

我が国における農作物よりみたる
職業構成 藤本 利治
農業地域の変化 柿本 典昭

道南のイカ釣漁業について 日本海における対道府県入漁の
地理学的研究 藪内 芳彦
鳴戸塩田の地理的研究 福井 好行

新開仲間請負新田の地割について 池浦 正春
宗教伝播の地理的研究(予察) 当麻 成志
瀬戸内海大島の地理学的考察 星野 輝男

ルソン島とミンダナオ島 木村 宏
(シンポジウム 労働力)
総論 谷岡武雄・山岡亮一・和田俊二、農
村 井関弘太郎・末尾至行、漁村 河野通
博、都市 西村睦男

(シンポジウム 城下町)
地理学における城下町研究の
成果と問題 藤岡謙二郎・矢守一彦
歴史学における城下町研究の
成果と課題 原田 伴彦・野田只夫

質疑依頼 佐々木清治・森 鹿三・
林屋辰三郎・会田 雄次

考古学関係

京都府竹野郡網野町大字小浜岡古墳群の調査

京都府文化財保護課の委嘱を受け十一月十日より五日間、京大考古学教室より、樋

口隆康・川端真治両氏が表記古墳群中道路

工事によつて取り除かれることになつた二基の古墳の調査に赴いた。両墳共砂丘上に築かれ、一は箱石棺を、一は堅穴式石室を

主体とし、前者からは一体の人骨、後者からは七体の人骨と共に、それぞれ若干の須惠器、鉄片、石製玉飾の出土を見た。

新入会員

朝尾 直弘
浅香 正
猪飼 昭子
池内 義資
池田 敬正
池永 二郎
池葉須藤樹
今治北高校
上田 和子
江坂長四郎
大戸 道彦
岡田芳三郎
小野塚玄規
楠本 典昭
堅田 直
金井 之文
金沢大学法文学部史学研究室 金沢市大手町一
金子 一司
木島 孝文
児島高校
小林 馨
小山 亭

今治市日吉

岡山県児島市味野

酒井 三郎
佐藤 長
佐原 真
潮見 浩
清水 泰次
鈴谷 正男
武井 博明
田中 繁三
坪井 清足
東京都立大学歴史研究室 東京都目黒区衾町五九一
中臣 恵暁
新田 益也
林 陸朗
藤原 紀子
藤田 等
細川 行信
牧田 諦亮
水谷 清三
三輪 房子
山田 真
吉川 専心
吉原 慶法
渡部 康彦